

びわ湖・まるエコ・DAY2008

環境・ほっと・カフェ「みんなでまるエコ！」

平成20年11月29日(土)15:30~16:45

於：琵琶湖博物館企画展示室

コーディネーター

井阪 尚司さん(NPO法人蒲生野考現倶楽部 総合プロデューサー)

大平 正道さん(しがらき狸学会)

津屋結唱子さん(子どもの美術教育をサポートする会 代表)

菱川 貞義さん(275(つなご)研究所 所長)

吉見 精二さん((有)地域観光プロデュースセンター 代表)

みなさんから発表いただいた「まるエコ宣言」の概要

<知事(近江地域再生フォーラムにて)>

[知事]

「子どもたちが自ら育つ力を近江の未来へ」

大人はちょっとそばにいて子どもを見守ることが大切

<企業の方>

「地域とともに一人でも多くの方に環境活動を広めていく」

今年から地域とともに環境活動を広げていこうと環境活動を進めている。

「ヨシを活用し、企業の立場で環境・琵琶湖をよくしよう」

子どもへの出前事業を実施している。

<地域団体、NPO、個人の方>

「西の湖や河川から県民みんなで琵琶湖をきれいにしていく」

ラムサール条約に追加登録されたことにより世界の人に西の湖を知ってもらえるきっかけになると思う。今まで以上に、昔のように魚や貝がいっぱいいる湖にしなければならない。子どもたちに取組の大切さを伝えていく。

「命のある限り、取組を続けていきたい」

古の時代を生きた者が豊かなまるエコ的な取組を実践してきたことを伝えなければならない。その手法として、屏風絵を活用している。

また、子どもから大人、婦人会、老人会まで集まって村の田んぼでもち米づくりに取り組んだ。これからも地域の中で子どもが育ち、老人も楽しめる地域を作っていきたい。それが「まるエコ」ではないだろうか。

「小さなことからコツコツと役に立つ場を広げていきたい」

松食い虫にやられた山林の保全に取り組みたい。

「地域の人の心が豊かになることを心がけて美化活動に取り組む」

回収された後のゴミ集積所の整理をしている。汚いものを置くにはその場をきれいにしないとどんどん汚くなっていく。自分のため、地域のために取り組んでいる。

また、最近、菊や葉ボタンづくりに取り組んでいる。地区の道筋に置かせてもらっている。

「取組が、点から線そして面になることを願って頑張ります」

皆さんが取り組んでいる山・川・田・食・暮らし・人・子どもに関するあらゆる取組は、すべてつながっているとつくづく感じた。また、このことに気づきはじめている人も増えている。

「西の湖を少しでも元の姿に戻したい」

西の湖がラムサール条約に追加登録された。これを機会に少しでも以前の水辺に戻したい。このままでは子や孫に合わず顔がない。

「らぶいん琵琶湖に参加してください」

日常生活の中で環境にいいことをしている人たちの集まり。月1回のゴミ拾い、廃油による石けんづくり、再生キャンドルづくりにみんなで手をつなぎ取り組んでいる。また年1回のお祭りとして、琵琶湖のほとりで「らぶいん琵琶湖」を開催している。

<大学・学生の方>

「人と人をつなぎながら子どもたちを交えて環境に対し取組をしていきたい」

近年廃れてきている古紙リサイクル活動に彦根市内で取り組み、活動で得た資金を地元に戻元している。最近では、企業や行政にも協力いただき、活動の場が広がってきている。

また、環境教育活動や学園祭での映像会（発表）にも取り組んでいる。

「エコというものを知らない子どもにも関心を持ってもらえる教師になりたい」

現在は県外の学校に通っている。離れてみて改めて滋賀はすごいと思った。できるだけ滋賀県のことを他府県の方に知ってもらいたい。

「まずは自分の家の中でできること（米のとぎ汁を庭にまく、お風呂に続けて入るなど）にきっちり取り組んだ上で、外の世界でみなさんと活動を広めていきたい」

野洲川流域で地域の木材を利用した家造り活動や、手入れされていない里山の木を活用した薪ストーブの活用などに取り組んでいる。

「地域の人々の"身識"に学びながら、五感（眼耳鼻舌身）と五大（地水火風空）の同時的再生を通じて滋賀の小宇宙を豊かにしていきたい」

環境と人間の間に深く多様な関わりがあった時代の話を取り取って絵にしていく活動に取り組んでいる。その中で学んだのは、人には知識だけでなく身識（身をもって感じとったこと）というものがあり、その二つが合わさってはじめて真の常識となるのだということ。小宇宙のような滋賀をもっと豊かな場所にするために、一人ひとりが互いの身識に学び合いながら、具体的な自然環境（地水火風空の五大）と、自然環境を感じとる人間の認識力（五感）とを同時

に再生・回復していかなければならない。

<施設の方>

「宇宙を通して地球・環境・社会・自然をもっとみんなで大事にしていく活動をしていきたい」
天文学は今まで理科・科学の追求を目的としていたが、これからは地球のこと考えるために宇宙を知り地球のことをみんなで考えていくためのきっかけとしたい。環境学習のベースになるような活動にしたい。少しでも多くの方が手をつないで取り組むことが大切。

「どうやったら淘汰されない文化を残していけるか、子どもたちと一緒に考えていきたい」

<行政の方>

「かつては自然との上手なつきあいの中で生活してきた、取り組んできたことが、結果として地域の環境につながったということ意識して取り組んでいきたい」

「CO₂を削減ために自転車の活用を実践する。環境で儲かるものを探す」
子どものアイデア力はすごい。とりあえずすぐ行動に移すパワーを感じる。大人は考えるだけで行動しないので、実践をしていきたい。

<各種団体の方>

「できるだけ車を使わない」
森林環境教育イベントなどを実施している。

<コーディネーター>

[菱川貞義さん]

「日々の暮らしの中での「まるエコ」に気づき、交流を通してその気づきをつなげていきたい」
「戦略的に人と人をつないでいく」
「食べ残しゼロ」という宣言があったが、こういう気持ちを持つのは周りの人とつながっているからこそ。人のつながりのあるところは何に取り組んでもうまくいくものである。

[吉見精二さん]

「環境保全活動やその大切さを伝える活動プログラムを都会の人・よその人にお裾分けするエコツーリズムを推進したい」
クイズラリー参加者のまるエコ宣言で気に入ったのは「友だちをつくる」という宣言。びわ湖・まるエコ・DAY 2008がまさに友だちをつくる集まりである。

[大平正道さん]

「山も川も田んぼも湖も人も大人も子どももみんなつながっている。つながるとまるエコ」
私も「友だちをいっぱい作る」という宣言が気に入った。つながる意味を再確認したい。

[津屋結唱子さん]

「私自身が滋賀県人になるべく、滋賀の文化等を皆さんとともに伝承していきたい」

滋賀に住んで10年経ったが、いまだに「滋賀に来た人」という感覚が抜けきれない。「あなた自身が滋賀県人にならないとダメよ」とある海外の活動家の方から助言された。今日は、滋賀の深く長い伝統・歴史の中で生活し継承する皆さんの滋賀を愛する気持ちに改めて触れることができた。

<まとめ>

[井阪尚司さん]

本日は、皆さん一人ひとりの目標としてまるエコ宣言をいただいた。地域に戻られたら、活動団体としての目標を宣言していただきたい。

多くの方に集まり交流いただいたと思う。宣言いただいた目標が実現できるようにそれぞれが取組を進めていただきたい。